

## 經濟上より觀たる支那内亂の原因

栗 山 茂

本稿は目下國民政府の要人現考試院長、戴天仇氏の論文「從經濟上觀察中國の亂原」の大意を譯出したものである。

凡そ如何なる問題と雖も全然生活と無關係である事は出来ない。例へば平常個人間の鬭争若くは紛糾に於ても吾々が若し仔細にその内部の狀況を考察するならば、必ずや彼等鬭争紛糾の原因が生活上の問題にある事を發見するであらう。況んや戦争なるものも一個の極めて重大なる社會現象である以上、其戦争を惹起する原因も亦必ずや社會の生活問題がその根本に横つてゐる事を知らねばならない。この根本問題を研究せずして只だ表面のみを觀察し、その表面に現はれたる一二の事實を以てその病根なりとし、よい加減に治療を施すならば、それ程危険なことではなく、萬一誤れば死に至らしめ、假りにその處方が他の病根と衝突するに至らなくとも、それは頭痛みて頭を醫し、脚痛んで脚を治す極めて局部的の應急手當に過ぎない結果となり、病根は依然として除去さるべきものではない。

人或は云ふであらう。最近支那の紛亂は益々繁く、人心又愈々險惡になつたと。誠に然り。然らばこれを如何

經濟上より觀たる支那内亂の原因

にして解決せんとするか。法律によつてこれを解決せんとするか。否、法律は既に社會の制裁力を失つた空文に等し。然らば兵力によつて解決せんとするか。否、兵力の本身も亦一片の散砂に等しくして何等の團結力を有せず、殊に最近數年間は兵權を掌握するもの、その大部分は自己の部下若くは與黨の手中に倒れて何等頼むに足らざることも既に周知の事實である。更に又黨の勢力擴張によつて何等かの方法を見出さんとするも、現下の状態は三人以上の團體を組織することすら困難なる状態にして、四圍の状況一變せんか、立ろに瓦解の運命に逢着すべきは明かである。又更に教育の力を借りて思想上より國民の覺悟を促進せんとするも、彼等の新思想新智識は一般の頑迷固陋なる權力者の容るゝ所とならず、この種壓迫と紛糾との中にあつては、思想智識の普及を圖らんとしても仲々容易ならざる業である。然らば如何にして支那を救はんとするか。

思ふに支那は常に紛糾を重ねるとはいへ、併しながら決して不治の病症なりと斷定することは出来ない。支那人は今や正に進化の道程にあり、恰も蛇が脱皮するのと同様で、内部の新しい肌と肉とが命懸けで生長し發達し來り、舊皮が尙新らしい肌や肉の上にあつて、新らしい肌や肉の發達を妨げてゐるが如き状態である。若しそれを破つて脱出せんとすれば必ずや多少の時間と努力とを要し、少くともその間は全身の不自由を感じるものである。而してこの不自由も更に新らしい生命を見出す爲には當然忍耐すべきである。

此の時に於て余(戴氏)は思ふに、凡そ愛國の士は唯徒らに燥急悲觀してはならない。何となれば如何なる燥急悲觀も國家の改造に於ては何等の必要を感じないからである。吾々が若し眞面目に支那を研究しその病根の所在

を明瞭に觀察し、然る後にその病根に對して最も適當な處方を施し、自覺せる全國民を糾合してこの點に向つて益々研究努力するに於ては支那の病根は容易に醫療せらるべきを信するものである。

## 二

吾々が經濟上より支那の亂源を研究せんとするは甚だ困難なる事柄である。何となれば吾々の研究せんとする資料に最も重要なものは各種統計上の資料であるが、此種資料は支那に於ては甚だ不完全なるもので寧ろ皆無と云つてもよい位である。考茨基カウツキ曰く、「十九世紀中葉マルクス、因格爾斯エンゲルスが彼の深奥なる唯物史觀を發見する爲に力をこの統計學の發達に負ふ所極めて多く、若し當時にして如斯き好資料なかりせば如何に馬克斯、因格爾斯の天才と雖もかくも精確なる學理を發見する事が出来なかつたらう」と。余(戴氏)も亦彼の批評に對して大いに贊意を表するものなるが故に、余のこの題目に對しても或は恐らく粗雜な觀察に止り、詳細な説明を試みることはざらんと、この點に關しては豫め讀者の御諒察を願ひ度いのである。

最近四十年間は支那經濟上に於ける一大變動時代であつた。試みに海關貿易表を見るに、即ち前清光緒初年以來三十幾年間、毎年輸入超過を示してゐる。これは一體何を物語るものであらうか、即ちこは、支那從來の生産品が機械製造品に對抗すること能はず、又從來の手工業製造が現代の需要に適合せず、一方支那自國に機械製造品の供給なきに乗じて、各國の機械製造品が日一日と支那に輸入されたことを意味するのである。汽船の速力も

經濟上より觀たる支那内亂の原因

益々加はり外國商品の支那に輸入される數量も從つて驚くべき數に達し、若しこれ等を比較列擧するならば必ずや人を驚かしめるに足るものがあらう。

支那人は元來農を以て國の大本となし、商工業の進歩は極めて幼稚にして機械製造なる事實を知らず、加之思想上、制度上、從來極端なる保守的のもの多きを以て、今驟かに彼等固有の製造法を捨て、新式の機械製造法を採用せんとするは彼等の欲せざるところである。假りに希望せりとするも諸種の必要なる條件を缺くが故に——例へば商工業の科學及企業合同組織の能力習慣の如き——急には間に合はず、而して機械製造品の需要の慾求が急速に増加すればする程、工業革命の事實は支那本國より發生せずして、却つて外國より輸入せられ、その結果は一大壓迫が支那國民の頭上に加はることゝなつたのである。交通益々開け、機械製品の消費愈々盛んな地方には生活不安の程度益々高く、改革の要求がこの生活不安の裏面より生じ來つたのである。

試みに第一期の革命家を見よ。彼等の主張せしところのものは何であつたらうか、即ち彼等は頻りに支那艦船並に銃砲の不良を説いて外國品を買ふべしとなし、支那教練は不適當なるを以て外國の教練に改むべしとなしたが、これ等は第一期機械製品を支那に輸入してより發生した結果である。今に至れば買求めしところの艦船並に銃砲等の効力は極めて薄弱であるけれども、當時に於てはこれ等の機械製品は決して排斥し得らるべきものでなかつたが爲に、第二期の革命家の出現するに及んで、更に又一步を進めて製造工場を設け、鐵路を敷設し、鑛山を開鑿し、造船の業をも興さんとして種々の工夫努力と研究とを重ねたけれども、彼等國民生活上の不安は暫に

除去されないのみならず、更に日を追ふて劇烈となつたのである。是に於てか即ち又第三期の改革家の出来を促がし、政治の改革上よりせんとする民権運動となつたのである。かく一段々と研究するならば吾々は明かに、支那亂事の根源が即ち機械製造品輸入といふこの一事にあることを知るのである。

## 三

思想まだ幼稚にして科學の智識未だ發達せざる時代に於ては、一般の人々は或る一つの奇怪な事實に對して自己の智識を以て判斷し得ない場合には、それを一種の神秘的事實と思惟するのが常である。例へば殺人といふこの事件は元來極めて苦痛であり、又最も好ましからざる事實であるが、世間往々にしてその發生を見るものである。而して多くの人々はそれを以て神の意思、自然の運命なりとしてゐるが、これは明かに錯誤である。一般の人々が支那の動亂に對しての觀察が、多數人民の生活問題より離れて只單に數人の意思の作用なりと考へ、甲はこれを乙の罪惡なりと稱し、乙はこれを甲の責任なりとする、これ等の觀念は均しく不合理である事は免れない。凡そ人の智識能力には夫々高低があるけれども、生存幸福の慾求に至つては誰一人として有せないものがなく、凡て一様に希ふものである。若し戰爭がどうしても必要のものでないか、若くは戰爭の慾求が彼等自身の生活慾望の中より發生したものでない限り、如何なる馬鹿者と雖も自ら好んで死地に踏み込むことがないであらう。これ正に明々白々の道理で前節に於て述べしところのこの生活不安の理由も自ら首肯せられるであらう。余は更に

一步を進めて、こゝ數年間の國內戦争の内容を詳細に解剖して見やうと思ふ。武力的政治革命發生以後、革命黨の實行方法を見るに次の三となすことが出来る。

一、思想の宣傳

二、軍隊の運動

三、會黨との聯絡

言論を用ひてする思想の宣傳及軍隊の運動については今更ら説明する迄もない。唯革命黨が會黨と聯絡するのは何故であるかといふに、即ち會黨とは生活上の落伍者であり、他の職業を有するものに比して生活上に受くる壓迫が最も大であるから、彼等と聯絡して武力的革命をなすことは比較的容易であるからである。

併しながら革命黨は決して會黨の所爲に對して賛成せるものではない。會黨も亦革命黨の主張を知らず、従つて所謂民權、民生等の主義の性質を彼等に知らしむるの困難なることもいふ迄もない。會黨の事情と軍隊の狀況とは略々相似たるものであつて、軍隊の前身が即ち會黨である。故に軍隊の士卒の殆んど大部分は生活上の落伍者である。其他一般人民に至つても、血氣に溢るゝ青年の多少民族主義を研究するものゝ外は、民權思想並に社會思想の眞意を知らず、何となれば支那人の生活根據が極端に脅かされてゐるけれども、歐米に於ける十九世紀以來の工業革命が齎した彼等の生活根據の動搖とは、性質は同じくとも形式は全く異なるものであるからである。歐米に發生せる社會問題はその根源を尋ぬるに、彼等本國資本家の組織せる機械生産にあるも、支那に發生せる

社會問題の根源は即ち外國より輸入せるところの資本家の組織せる機械生産にあり、歐米に於て發生せる社會現象は農民の工人化であり、直接生産的工人の奴隸化であり、中流階級の平民化であるに比して、支那に於て發生せる社會現象は、これ等に屬するものは極めて少數にして、最も重要な事實は、即ち從來の家内工業、徒弟工業、並に農業の生産者が外來の機械製造品の壓迫を受け多數の失業者となつたことである。即ち新工場に吸収せられる工人の數よりも失業者の數が更に大きくなつて來たのである。その結果支那人民の生活上の痛苦がいよいよ増大されたのである。併しながら彼等は一人としてその痛苦が那邊より來れるものであるかを知らず、又如何にしてこの痛苦を除去すべきかを見出し得ないのである。極めて少數の革命先覺者が甚だ抽象的な三民主義を提げて彼等に講じても、彼等はその最も重要な民生主義に對してさへ尙了解し得なかつたのである。更に民權主義に至りては、極めて少數の中上流階級にのみ僅かに了解さるゝに過ぎず、唯最も實物教訓の有する——官廷の腐敗、王侯親貴の横暴、駐防旗兵とその家族の跋扈等——民族主義は了解するもの比較的多數にして、これを主張するものも比較的劇烈なるを以て従つて効果も相當見るべきものがあつた。故にこの主義の宣傳が一日多ければ多い程、滿清政府の運命はいよゝ短縮を早められ、武漢の義兵一度起るに及んでかの二百七十餘年の運命も遂に終りを告げたのであつた。

滿清政府の滅亡は明かに民族主義の影響であるが、民族主義のみといふことは出來ない。滿清政府滅亡の主な原因はやはり多數人民の生活根據の動搖であるといふことが出来る。多數人民の生活根據の動搖は即ち外來の

大資本家の製造せる生産品の壓迫にある。併しながらかくの如き事實は多數の痛苦に惱める人民すら知るものがなく、又多數の熱心なる革命主張者も——余は大膽に多數といふ——又これを輕視してゐる。故に民國元年民生主義の四字は全く跡を絶ち、民權主義の四字のみ僅かに少數政客の生活手段に利用さるゝに過ぎず、而して人民の痛苦に對しては何等顧みられなかつたのである。そして新國家建設の根本問題が何處に存するかをも知るものがなかつた。故に辛亥革命並にそれ以前の革命に於てはその革命に參與せし人々は、即ち唯少數の先覺者と多數の生活上の落伍者にして、或者は理想的の新國家を建設せんと希望し、又或者は唯眼前の生活の満足を以て足れりとするものであり、又他の一部は根本の大破壊大創造を企圖するものであり、更に又一部は唯表面的な個性の慾望充實を圖らんとするものであつた。かくの如く革命事業の失敗、革命黨の分裂、これ等の歴史的事實の原因は凡て生活問題の根本上に存するのであつて、政治上の破綻を責むるの要なく、又必ずしも思想上の破産者を責むるの必要がないのである。何となればこれ等は凡て必然の結果であるが故に若し果して多數の人の生活慾求の水平線がより以上に高められず、又生活慾求の性質が改善せられない限りは、たとへ如何なる語を以てしても解決されないものである。

## 四

上述の事實より觀察し來れば、即ち現代支那の革命の意義と支那古代革命の意義とは、性質上相同じくとも形

式上全く相反するものである事を知るであらう。何となれば古代の革命は政治上の聚斂より發生するところの生活壓迫より、又宮室の奢侈と官吏貪婪の分配不平等の事實より醸成せられたる階級的壓迫及自然力により演成せられたる生活壓迫例へば人口の過剰、天災、悪疫流行等これ等の事實が主因となつて發生せしものであり、生産方法より發生する激變によるものではなかつたのである。而して現代支那の革命の原因は單にこれ等の問題に止らず、その最大原因は即ち歐米に於ける工業革命の果實である。交通發達の力を借りて支那に輸入した彼等は凡て機械を用ひて生産するに反し、支那は殆んど手工業によつて生産したのである。只一人が機械力を用ひてする生産力と、一人が舊式の器具を用ひてする生産力とを比較すれば、その差は幾十倍幾百倍であるかを知らず、故に吾人が若し輸出入の貨幣價值を離れて唯兩者の價值の内容を比較しても、即ち兩種の商品の中に包含さるゝ所の勞働分量に非常な差異のあるのを見出すのである。此等莫大の生活壓迫が支那多數の細民の頭上に加はればどうして堪え得られやうか。一例を擧げるならば現代歐米各國と支那との貿易に於て、若し此の種機械製品と支那の手工業品若くは農業生産品とを交換する事なく、更に又大資本經營の生産品を運び來りて支那の徒弟工業品と交換する事なくば、決して支那現代の生活が今日の如く、かくも動搖する事はなかつただあらう。試みに中古以來、波斯、印度、日本等の諸國と支那との通商當時に於けるこれ等貨物の交換法により發生せる影響を研究するならば自ら明瞭となるであらう。

西洋雜貨が始めて支那に輸入せられた當時は、支那人は悉くその精巧便利なるに驚歎し、大いにこれを歡迎し

たけれども、漸く増加するに従ひ、多數の生産者の地位にあるものは直接西洋貨と利害上の衝突を來し、是を以て洋貨排斥、通商排斥の事實が生じて來たのであつた。その後有害なる阿片貿易の加はるに及んで、この種排斥の事實が益々擴大されたのであつた。併しながら彼等貿易商人の背後には常に一個の大なる國家勢力が潜んでゐたが爲に、排斥の事實が益々劇しくなればなる程、國家間の衝突が益々劇しくなり、而も支那が一度失敗するに及んで通商上洋貨の地位が益々擴大される結果となつた。その結果はどうであつたらうか。社會上に於ては即ち一般生活の不安と失業者の増加となり、遂に革命の擾亂を發生せしめたのであつた。政治上に於ては即ち政費の擴大となり、租税の加重となり、紛擾がいよゝゝ劇しくなればなる程、生活上の様式より表現せらるゝ生活の壓迫が益々重を加へて來たのである。かくの如き状態に於ては、自然排斥と革命の兩種の事實が發生するのである。南京條約成立後九年にして洪秀全の舉兵あり、日清戰後六年にして義和團の事變あり、南方に於ける革命運動も亦正に北方の義和團の運動と時を同じうして發生した。この事實を通觀するとき、我々は即ち一切の政治上社會上の變態が凡て相互に相關聯せるものであり、又夫に因果關係の存することを知らることが出来る。支那に於ける最も初期の革命先覺者は廣東及福建、長江一帶の地方即ち最も早く歐洲文明と接觸した地方に發生したのである。此等革命運動者も亦科學文明の感化を受けたが爲に、彼等は此の種生活の壓迫を免れんとする爲には生活の方法を改善し、國家社會の組織制度を改むべきであると主張した。この二個の大運動を時代より見て冷靜な觀察を下すときは、即ちこれ等は均しく歐米が國家の形式を以て支那に輸入し來れる大資本組織の機械生産品の壓迫によるも

のであり、この一大壓迫により生活の不安が発生し、生活不安の爲に自己解脱運動が発生したものであるといふことが了解される。

## 五

革命史の意義は吾々は斯の如き冷静な觀察を以てその大體を知ることが出来る。民國元年以來今日に至る既に十幾年その間に於て大亂の發生せる事幾回なるかを知らず、その戰亂の度毎に多數の人民を殺し——銃砲の爲に死するものよりも寧ろ失業流離して死するものの方が多數である——或は幾多人民の住家を破壊し、或は人民の食料を奪ひ去るのである。——就中その最も大なるものは兵亂によつて來るところの生産減退である——而してその結果は益々悪くなり或は護國運動と云ひ、或は護法運動といふも、その大亂の度毎に唯徒らに幾千百の勳章と幾千百の新官吏とを作る外、人民の生活方法の改造乃至國家組織の變革に對しては、何等良好なる成績を表はさなかつたのみならず、却つて幾多の外債を増し、許多の政治上軍事上の浪費を増すのみで、人民の生活上に對しては更に幾千百倍の新らしい生活壓迫を加ふる結果となつたのである。而もその不安の程度をして日一日と高からしめつゝあるのである。若し斯の如き状態を今後も尙繼續するとせば、恐らく内亂の根絶することはないであらう。更に益々繁きを加ふべきことは火を見るよりも明かである。吾々はこの大問題を研究する前に先づ支那の社會状態を詳細に解剖する必要がある。

支那は元來社會の階級を分つて士農工商の四種となしこれを四民と稱した。この四種の人々は支那人の人類に對する觀念上に於ては凡て平等となしてゐる。古代に於てはこの四種の區別は階級的の區別といふよりも寧ろ分工的職業的區別であつた。何となればこの四種の人々は、凡て均しく腦力或は體力を用ひて社會に貢獻するものであつたからである。然るに分工の結果は私有財産の増大となり、社會階級もそれが爲に益々大なる差を生ぜしむるに至つたのである。政治上に於ては治者階級と被治者階級とが完全に分離し、社會上に於ては有産階級と無産階級が完全に分離し、一方には富貴の階級を生み、又一方には許多の生活の落伍者を生ぜしめた。その最も上層の富貴階級とその最も下層の生活落伍者との二種の階級が遂に社會組織上の缺陷を曝露するに至つたのである。若し過度の事實の發生がなければこの種社會の缺陷は社會の裏面に伏在して、單に表面上より觀る時は充分にその缺陷を覺り得ないものである。併しながら一度過度の壓迫が——例へば宮廷及官吏の奢侈より生ずるの租税の加重、若くは自然力による人口の過剰より、延いては水害、旱害、虫害等の天災の爲に——繼續的に發生するか、若くは波及的範圍が擴大されるならば、これ等社會の缺陷が忽然として曝露し來り、是に於てか革命が發生するのである。革命の結果は即ち治者階級の變異と貧富階級の轉換となる。歴史上に見る大小幾多の革命の事實は凡て一種の階級生活の闘争であり、而もこの階級闘争の裏面には必然的に幾多の慘忍なる非道徳行爲が發生するものである。例へば姦淫掠奪等の事實は必ずや免れ得ないものである。何となれば革命といふ非常事變は社會上種々の經濟上の反常状態の證明であり、階級的な生活壓迫の結果であるからである。

吾々はこの歴史的事實に對して一個の重要な點を發見する。即ち支那の兵亂は決して士農工商等の職業を有し、生活手段を有する者が主動者となるに非ずして、これ等四種の職業を有する者以外の落伍者の階級が主動者となるといふことである。亂事の發生は即ち生活の落伍者の増加にあり、亂事の平復は即ち生活落伍者をして適當な生活を營ましめ、貧富の階級を減少せしむるにあるのである。吾人が若し馬克司の歴史觀察法を用いて支那の歴史を觀察し、達爾文<sup>ダーウケン</sup>の生物進化論の法則を適用して支那の歴史を解剖すれば、此等混沌の事實もよく了解されるであらう。近代の革命現象も亦斯くの如く、國外より輸入せられたる大壓迫により國家及社會組織の缺陷を曝露して人民生活上の不安を惹起せしめ、生活上の落伍者の數を増加し、これ等生活の落伍者が即ち土匪といふ一種の特別階級に投するのである。

支那は募兵制度の國である。兵士は職業を失つたもの、就く職業とされ、他に職業を有するもの、最も好まなところのものである。従つて軍人たらんと欲するものは即ち生活上の落伍者であり、土匪である。解散された兵士にして他に何等生計の道なきものは、又土匪に投じ再び生活の落伍者となるのである。故に兵士は即ち土匪であり土匪は即ち兵士であるといふ有様で、その間何等本質的の差異はないのである。換言すれば兵士は即ち國家の二字を保護者となし、一定の収入を有する土匪であり、土匪は即ち保護さるべき國家の二字を有せず、又一定の収入を有せざる兵士であるといふことが出来る。生活上の落伍者が益々多ければ兵士の必要も亦益々多くなり、兵士愈々多ければ社會の生産能力を壓迫する事又愈々大に、従つて生活上の落伍者は益々多くなり、經濟狀

態の恢復は益々困難となるのである。更に考ふべきは、現在兵士の用ふる兵器はその様式雜多にして殆んど外國から輸入されたものであることである。故に外國より輸入さるゝ兵器服裝の爲に國債の額が年々増加し、國際間の勢力均衡を失して經濟的壓迫が加はり來り、國民の生活が日一日と惡化し、國家の地位も亦日一日と危險化するのである。更らに政治上の支配者について言へば、經濟が正常なる状態にある場合には、支配者の階級は完全に士農工商等の職業を有するものゝ中より出で來るものであり、此等の支配者は完全に有産階級並に無産にして職業を有する階級とを後援となすものである。故に彼等一切の政治上の行爲は、務めて有産階級と有職者階級の心に添はんと欲し、従つて社會道德の制裁力も亦この一方より生ずるものである。併しながら若し經濟組織が一旦常態を失した場合には、生活の落伍者たる土匪は忽ち兵士といふ組織によつて治者階級に突進し來り、爲に治者階級の無力者並に反對者は漸くその勢力を失ひ、兵士となりて衣食住の供給を謀り、若くは兵士の智慧を供給することの出來る者以外は、凡て兵力の爲に治者階級以外に排除される。是に於て政治組織は武人官僚政客の火事盜人的の一種の最惡劣の制度となり、政治上の最高權は即ち武人の手中に落ちるのである。

この一種の反常的現象を最も簡單にこれを説明せば即ち

階級の壓迫より多數の生活上の落伍者——即ち土匪——を生じこの多數の土匪が兵士の組織を透して政治上の治者階級の地位を取得し、土匪の首腦者が更に治者階級の地位を利用して新階級の壓迫を造成するものである。

若しこの解剖にして誤なからんか、舊知識階級によつて組織せられたる革命黨の失敗、一方擁兵自衛、擁兵争權の武人が突然政治上優秀なる地位を占める事實は、極めて明瞭なる一個の結論を得るであらう。

## 六

更に一つの重要な事實がある。即ち最近數年間の争亂は全國よりこれを觀る時は南北の戦争といふことが出来る。更に南方について看るときは、一個の省と省との戦争である。例へば雲南對四川の戰禍、廣西對廣東の紛糾等の如く、これ等の事實は過去の歴史に徴して何人もこの事實を否定することは出来ない。吾々は更にこの事實に對して研究せねばならない。

凡そ如何なる國と雖も文明の進歩せる時代に於ては、人口の移動、生産状態の變遷は凡て一個の原則によつて行はるゝものである。即ち人口稠密なる地方に住める人々は、人口稀薄なる地方に移住して人口稀薄なる地方の富源を開發し、人口稀薄なる地方の貨物を人口稠密なる地方に運搬して彼等の消費に供給するものである。經濟上最も重要な二つの生産要素は即ち土地と人口とである。人工を地上に用ひるとき、そこに始めて生産の由來を生ずる。人力と地力とを媒介するものは即ち器具と技術とである。個人の生産を變じて社會の生産となす唯一の方法は交換である。人力と地力との平均を謀るものは即ち交通である。器具、技術、交換、交通等の進歩は即ち

文化の進歩である。現在世界の各地方に於ても、人口の密度並に土地開發の程度の相異なる所が甚だ多い。支那一國について云ふも、支那本部各省と南北の各省とはその人口密度に於て非常な差を有し、更にこれを蒙古、西海、西藏の諸地方に比すればその差は一層大きくなるのである。遠く南洋諸島の人口密度を見るに、支那西北各地の人口に比してやゝ密なりと雖も、これを支那本部の各省に比すれば極めて稀薄である。故に支那本部の各省より見れば北部西部南部は共に人口稀薄の地方である。かく觀來れば支那本部各省の人民は最も幸福と云はねばならぬ。何となれば人口の移住地を求むるにも、亦貨物の生産地を求むるにも極めて容易に得られるからである。故に支那本部の人口が如何に増大しやうとも目下の境遇にあつては、人口増加の爲に「三十年一小亂、六十年一大亂」の恐慌を來す虞はないのである。然るに支那現時の如く争亂の頻發するの事實は却つて然らず、二三の特殊の地方を除き、その大部分は人口稀薄の地方より、人口比較的稠密な地方にその勢力を逆に侵入せしむる爲である。これ等の事實を列擧し、然る後にその原因の所在を研めやう。

一、人口稠密の地方より人口稀薄の地方に漸次移住するの事實(原則的である)

1、廣東、福建人の南洋及亞米利加に移住するもの

2、山東人の奉天、吉林、黑龍江及西比利亞各地に移住するもの

二、人口稀薄の地方より集團的の形式を以て人口稠密なる地方に移住するの事實(變態的である)

1、北方軍隊の南方移駐

2、雲南、貴州の軍隊の四川移駐

3、廣西軍隊の廣東移駐

以上列擧せる二つの事實より觀れば(一)は合理的現象であり(二)は不合理的現象である事はいふ迄もない。而して斯の如き現象の生ずる所以は大畧次の三となすことが出来る。

一、地理的關係 廣東、福建の兩省は均しく海に臨み、自由に海外に移住するに便利であると同時に、外國の文化も亦極めて容易に輸入されるからである。山東地方の人口密度は前清政府の一九〇二年の調査によれば、一平方哩に六百八十人とありて支那第一位を占め、而も從來この過多の人口を消化するに便利な地方がなかつたが、その後東三省の鐵道が敷設され、陸上海上の交通が益々發達するにつれて、孫文の所謂「凡そ交通路線はその兩端の中、一端は最も繁華なる土地に接し、他の一端を未開の地に接する場合に於てはその効用最も大なり」と謂へるが如く、山東人は俄然北方に向つて移住を開始したのであつた。而もその數は年と共に非常なる勢を以て増加し、遠くは莫斯科、彼得堡等の諸地方に到るまで、殆んど山東人の足跡を印せざるなき状態である。斯く觀來れば海岸線の灣曲と滿洲を縦貫する東支鐵道並南滿鐵道と、西比利亞を横貫する西比利亞鐵道とは、誠に福建、廣東、山東の各省人にとつて幸福といはねばならない。

併しながら斯の如き利便を有せない地方は決して然らず。例へば北方各省の背後には蒙古、新彊の廣漠たる地方を有しながらその地方に移住せんと欲するもの殆んどなく、甘肅地方も前表の記載する所によれば、

經濟上より觀たる支那内亂の原因

人口の密度は尙山東の十分の一にも達しないに拘らず、やはり移住せんとするものはないのである。西藏、青海はもとより、川邊、雲南地方も亦移住せんとするものなきは、これ全く交通不便に原因してゐるのである

## 二、人事上の關係

1、政權爭奪と利權爭奪、古人の言に「爭名者必於朝、爭利者必於市」とあるが如く、この名と利とは彼等軍閥の市朝に於て獲得せんと欲する唯一の目的物である限り、彼等は人口最も稠密な生産力の強大なる地方に向つて求むるのは當然である。

2、兵士と土匪の多數性格、兵士、土匪共に社會の落伍者である。落伍の原因はその大半は環境の壓迫であるが、落伍者自身の身心の缺陷も亦その原因の一である事は云ふ迄もない。而して彼等が落伍する間に於て更に彼等の身心を容易に腐敗せしむるものであるから、これ等の落伍者に向つて自動的合理的の生活奮闘を要求するは無理である。これ等生活の落伍者は唯一の手段として既成の生産品を掠奪する事によつて生活を維持してゐるが故に、自然掠奪の地盤を人口稠密にして生産力の強大なる地方を選ばざるを得ないのである。例へば廣西の兵士が廣東若くは湖南に侵入するが如き事實は、即ち彼等が廣西に於て農民生活をなし、或は開墾事業に従事するよりも更に數十倍の勞苦と危険とを冒してまでも、生活不安の苦惱より免れんとするためである。彼等のこの習慣は遂に怠惰の性格を形づくり、決して繼續して勞働に従事するを欲せず、唯徒らに彼等が幻想中の安樂境を實現せんとするのである。恰もそれは諺に云ふ「乞食三日す

ばやめられぬ」といつた心理状態である。北方の兵士、土匪が圏外地方に出で、生活を求めやうとしな  
 いのも、この理である。

其他氣候も大なる關係を有し、更に人事上に於ては智識思想の不進歩、生産器具及技術の不進歩、組織能力の  
 缺乏など凡て大なる關係を有するものである。これ等種々の原因が全國人民の生活不安より發生するところの國  
 家的社會的大震動運動と相俟つて茲に一個の經濟上の反常状態を發生せしむるものである。

(一) 北方の生活落伍者が相集つて土匪となる。而して土匪の發生はすでに生産及分配の缺陷にあるを以て、そ  
 の匪源地の生産は固より土匪の要求に應ずる能はず、茲に於てこれ等生活の落伍者を後援となさんとする野  
 心家——官僚武人政客或は落伍者の有力者——は即ち彼等を糾合組織して軍隊を編成し、團結力を頼み、或  
 は又國家の名義を借りて南方の人口稠密生産力強大なる地方を佔有し、富裕な地方の生産品を以て彼等生活  
 落伍者集團の兵士及土匪に供給するの財源に充てんとするのである。

(二) 甲省の生活落伍者とその省内の野心家の爲に利用せられて兵士となりて乙省に侵入し、乙省の人口稠密生  
 産力強大なる地方の生産品を以て甲省の生活落伍者の供給に當てる。例へば雲南、貴州對四川、廣西對廣東  
 等の事實は皆これである。尙同一省内に於ても例へば浙江省内の台州、金華等の地方はこれを杭州、嘉興、  
 湖州、南京、紹興等の諸地方に比して人口の密度が稀薄なるが故に、台州の土匪によつて組織せられたる兵  
 士がそれ等地方一帯に遍在せるが如きこれである。尙一層容易に證明し得らる事實は、即ち幾多の野心家が

經濟上より觀たる支那内亂の原因

彼等の地位を維持せんとするか若くは擴張せんが爲に募兵せんとしてその地方に土匪なき場合には、特に人を派して他の土匪多き地方に到らしめて募集するが如きである。

以上は一方より觀察した事實であるが更に南方について觀るも、決して生活の落伍者なきに非ず、四川、廣東も亦然り。又彼等を利用せんとする野心家もなしといふべからず、土匪の相集りてなれる兵士も亦極めて多し。而してこれ等の兵士及土匪は已にこれ等の地方を落伍者生活の地盤となし、後より侵入し來る勢力に對しては必ずや命懸けで對抗するものである。一般の生活者も亦他地方の生活落伍者の來りて更に彼等の負擔をして加重せしめられんことを虞れて、彼等は共同して土着の土匪を援助して對抗するのである。是に於てか即ち一個の大戦争が生れるのである。故に四川の當局が如何に腐敗し、又その兵士が如何に性が悪くとも、彼等は必ずや北兵或は雲南、貴州の兵士の侵入を希ふものではなく、又南方の當局並に兵士が如何に惡劣であつても、北方勢力の侵入を希はないのである。斯の如き思想は唯少數の政權を爭奪せんとする一部の野心家のみではなく、確にそれは一般人民の心理である。この心理は果して何を物語るものであらうか。即ち明かに利害を物語るものである。表面に標榜する主義に至りては、或者は中央集權を叫び、或者は地方分權を叫び、或者は國家統一を叫び、又或者は民權の自由を叫ぶものもあるも、これ總て生活改善の希望の中に彼等が標榜するところの方向である。何れが是か、何れが非かを判別せんとするに至りてはそれは智識の問題思想の問題である。

余の觀察せる大要は斯の如し。吾々が支那の過去及現在の種々の變象を觀るに、こは全く歐米日本等の壓迫により誘發されたものである。支那の社會は本來幾多の缺陷を有せしも、偶々これ等の缺陷がこの外界の壓迫を受けて暴露されたものである。而してこれ等の壓迫が如何なるものであり、又その原動力が奈邊に存するかを尋ねんとせば、吾々は世界近代の文明史を詳細に研究すればよい。即ち一切の東方を壓迫せる原動力は即ち科學の進歩にありといふことが出来る。歐米の社會の缺陷が暴露されたのもやはりこの科學の進歩に外ならない。支那の内亂も余の觀る所によれば、容易に靜止すべくもない。何となれば支那國家社會の缺陷が今や暴露され、進歩的傾向が甚だ明瞭であり、一方進歩を助成せんとする新文化運動が非常に猛烈であるからである。而も大多數の人民は尙自覺せず、又一般の舊文化勢力圈内の人々もこの新文化運動進行の力量を阻止してゐるからである。生活鬭争の方面に於ては更に一層の文化競争が加はり、而もこの一大震動が果して新文化運動成功の時に至らざる限り靜止しさうもないのである。然らば新文化運動とは何ぞや、新文化運動とは即ち科學の發達を基礎とせる世界的國家社會の改造運動である。大破壊なき大建設を望む能はず、而して一面破壊すると同時に建設せんとする爲に要する努力は、凡て必ず到來すべき運命を有する新世界に向つて拂はねばならない。事實上の解決策に至りては、吾々は既に兵亂の根本原因が外來機器の生産品壓迫より發生せるところの生活の不安、生活落伍者の増加及人力と地方との不調和にあることを知るが故に、孫文の主張せる機器借款政策、海陸を聯絡する大鐵道政策、人口稀薄の地方と人口稠密の地方とを連ぬる鐵道の敷設等が最も切實な問題であると思考するのである。(四、一二、二五)